世界の光
スクリプト：江川剛史
老師：では、修行の続きを始めよう。
ホープ：はい。
ガール：はい。
老師：この世には、光と闇がある。
老師：闇を消し去るためには、光が必要じゃ。
老師：光の力こそ、世界を救うのじゃ。
ホープ：でも老師様。
この世界の外の世界では、
魔法使いが、炎とか氷とか、
時に風を操ると聞きます。
ホープ：私も炎とか、氷とか、風を操りたいのですが。
老師：では、聞くが、ホープよ。
炎を操り、他の者を燃やしたいのかな。
ホープ：いいえ。
燃やしたくはありませんが、悪を倒すためならば…。
老師：では、相手が悪魔なら、
燃やしても良いというのが、
ホープの答えかな。
ホープ：…。
老師：例え、人を苦しめるような悪魔であろうとも、
炎で焼き殺したり、凍結させたり、風で切り裂いたり、
そういうのは良くないのではないかな。
ホープ：…そうですね。
老師様の言う通りです。
ガール：私も敵を倒すには、様々な力が、
必要だと思っていました。
でも、危険な力は持つべきではないんですね。
老師：そうじゃ。
光の力さえあれば良い。
光で癒したり、闇を照らすだけで良いのじゃ。
老師：それでは、今日も、光を高めるため、
良い行いをし、世のために祈るのじゃ。
ホープ：はい。
ガール：はい。
ホープ：どうしたんですか。老師様。
老師：どうやら、王様がわしを呼んでいるようじゃ。
皆で城へ行くとしよう。
ホープ：はい。
ガール：はい。
王様：来たか。老師よ。
老師：久しぶりですな。王様。
王様：今日、ここへ来て貰ったのは、
実は、老師に、
お願いしたいことがあるのだ。

老師：何ですかな。
王様：実は、魔王ダークキングが、
この世界に復活したらしい。
老師：何！？
あのダークキングが！！
王様：そうだ。昔、世界を闇で支配し、
魔族が支配する世界にしようとした、
あの魔王ダークキングだ。
老師：何ということだ…。
王様：そこで、お願いがある。
かつて伝説の勇者と共に、
魔王と戦った老師よ。
魔王ダークキングを倒してくれぬか。
老師：ダークキングを倒す。
…果たして、このわしに、
あのダークキングを倒せるであろうか。
王様：私は、そなたを信頼している。
今、伝説の勇者がいない今、
そなたを頼るしかない。
老師：……。
分かりました。
魔王ダークキングと戦うことにしよう。
王様：ありがとう。老師よ。
王様：しかし、ここで、
一つ付け加えておくが、誰にも、
魔王が甦ったことは話してはならん。
王様：魔王ダークキングにより、
世界が闇に支配され、
この国も、かつて悲惨な目に合った。
王様：魔王ダークキングが甦ったことを、
国民が知れば、不安や絶望を、
感じるものも多々現れるだろう。
王様：魔王ダークキングが、本格的に、
再び、世界を闇で支配するため、
活動する前に、止めて欲しい。
老師：分かりました。
誰にも言わないことにしよう。
王様：しかし、そなた1人では、
行かせるわけにはいかない。
選りすぐりの兵士を一緒に行かせよう。
老師：いや。
それは結構じゃ。
老師：わしには弟子がいる。
ホープ。ガールよ。
一緒に魔王を倒しに行かぬか。
ホープ：私は、老師様に、

世界の危機が訪れた時のために、
闇と戦う術を学びました。
ホープ：私も老師様と共に行きます。
やれるだけ、やってみます。
ガール：私も、世界のために、
何か出来ないか、
考えて老師様の弟子になりました。
ガール：魔王ダークキングや魔族達は、
その昔、女性や子どもたちにも、
酷いことをしたと聞きます。
ガール：皆が苦しむ世界に、
この世界をさせたくない。
私も魔王ダークキングと戦います。
老師：ありがとう。
ホープよ。ガールよ。
王様：では、
魔王の居場所を教えるとしよう。
王様：魔王ダークキングは、魔族の洞窟。
その最深部にいるらしい。
老師：分かりました。
では、行くとしよう。
王様：老師よ。
そなたなら、きっと魔王を倒せる。
そなたの帰りを待っているぞ。
老師：伝説の勇者よ。
老師：わしも、そなたと共に、
魔王ダークキングを倒す旅をした。
老師：しかし、わしは、殆ど、
見ているだけだったし、
老師：魔王が倒された時、
わしは、気を失って見ていなかった。
老師：魔王を倒したのは、勇者様。
貴方だった。
老師：わしも、この世界が、
再び、闇に支配されぬよう、
光のエネルギーを高める修行をしてきた。
老師：しかし、魔王ダークキングは、
恐ろしい相手。
わしに倒せるであろうか。
老師：…。
ホープ：私は、老師様ほど、
心の内に秘めた強さを持つ人は、
いないと思っています。
ホープ：いつも弟子の私達のために、
光を教えてくださいました。
ホープ：大丈夫です。

老師様は、誰よりも強い。
魔王ダークキングなんて、倒せますよ。
ガール：老師様。私達が付いています。
見てください。
街の人々を。
ガール：みんなの幸せを、
闇で支配させるわけには行きません。
皆の幸せを守るため、戦いましょう。
老師：そうじゃな。
魔王ダークキングは、恐ろしい相手じゃ。
老師：かつて、
魔王ダークキングは、世界を闇で支配し、
人類を不幸と絶望の世界にした。
老師：様々な人間が死んでいった…。
老師：戦うとしよう。
世界のために。
モンスター：来たな。勇者達。
モンスター：魔王ダークキング様は、
再び、世界を闇で支配しようと、準備をしている。
モンスター：お前達、人間共は、
魔族の奴隷になるのだ。
老師：相変わらず、魔族は心が冷たいのう。
モンスター：当たり前だ。
それが我ら魔族の本質だからな。
モンスター：人間の女性達の体は、我らのもの。
人間の男共は、我らのため働く奴隷。
生涯、働き続けさせるのだ。
老師：相容れぬ考えじゃ。
魔族よ。
光により、
その闇を無くすが良い。
老師：行くぞ。
老師：老師は『破邪の光』を放った！
モンスター：うわぁーーー。
ホープ：…敵が止まった。
敵が停止している…。
老師：そうじゃ。
破邪の光は、一時停止魔法。
相手の動きを止めることが出来るのじゃ。
老師：先へ行こう。
モンスター：魔王様のところへは行かせない。
モンスター：我らモンスターだけでは、
人類と戦争して、
人間を支配出来ない。
モンスター：でも、魔王様さえいれば、
人間を支配することなんて、

容易いこと。
モンスター：俺達は、
血に飢えている。
モンスター：人を傷つけて楽しんだり、
女性の体を楽しんだり、
毎日、快楽の日々よ。
モンスター：その実現は、
魔王様がいてくれれば、
可能なこと。
モンスター：我ら魔族は、
悪魔の種族。
この世界で、存分に楽しませてもらう。
老師：人間にも、心があり、
基本的人権がある。
悪魔の奴隷にはならない。
モンスター：魔王様の魔力さえあれば、
お前達、人間なんて、
何でもない。
モンスター：俺達は悪魔なのさ。
相手が苦しもうと何だろうと、
楽しませてもらう。
老師：全く変わってないようじゃな。
愚かなことじゃ。
老師：正しく生きようとか、
光に生きよう。他者を幸せにしようとか、
思わないのか。
モンスター：思わないね。
俺さえ楽しければいい。
モンスター：俺達は、人間を、
いじめるのが好きなのさ。
人の不幸が楽しいのさ。
老師：今からでも遅くは無い。
正しく生きようとしないか。
モンスター：俺達は悪魔だ。
人類を苦しめて、楽しんでやる。
モンスター：お喋りは、ここまでだ。
我々の魔力を受けるが良い。
モンスターは『闇の反抗』を放った！
老師：ううむ。
老師達は、577 のダメージを受けた。
老師：大丈夫か。ホープよ。ガールよ。
老師は『癒しの光』を、味方に放った！
老師達の傷は癒された。
老師：行くぞ。
老師は『破邪の光 2nd』を放った！
モンスター：ぐわぁーーー。

モンスター:………。
モンスターは、一時停止した。
老師:もう少しで、確か、
魔族の洞窟最深部じゃ。
行くぞ。
魔王:来たか。勇者よ。
我を止めに来たか。
老師:久しぶりじゃのう。
魔王よ。
変わらぬ闇の魔力じゃな。
魔王:久しぶりだと。
我を知っている人間。
魔王:それは勇者。
それと確か、人間の少年。
魔王:お前は、あの時の少年か。
老師:そうじゃ。
あれから丁度、50 年振りじゃな。
魔王:そうだ。
我が、この世界を闇に支配し、
魔族の世界にした時から、50 年だ。
魔王:あの人間の勇者により、
私は敗れた。しかし、あの勇者も、
もうこの世にいまい。
魔王:再び、この世界を、
闇にしてくれる。
魔王:我ら魔族の本能通りに、
好き勝手に、
人間を奴隷化し、楽しませてもらう。
老師:それは、
させるわけには行かぬな。
人間に危害を加えるのは止めないか。
魔王:止めないな。
我らは悪魔。
悪い行いだと分かっていて、やるものよ。
老師:そなたの中に、光は無いか。
正しく生きようとはせぬか。
魔王:我らは魔族。悪魔である。
人を傷つけ、苦しみ、楽しむ。
それこそが快楽なのさ。
老師:…分かった。
わしも、再び、悪魔が現れた時のために、
光の技術を高めてきた。
老師:魔王。そなたを倒すぞ。
魔王:ふふふ。
それは出来はしない。
我の魔力は強大なり。

魔王:行くぞ。人間共よ。
魔王は、『闇の雷』を放った！
老師は、ホープ、ガールを守った。
老師は、1540 のダメージを受けた。
ガール:老師様！！
老師:魔王は危険じゃ。
ホープ、ガールよ。
離れていなさい。
魔王:続けて行くぞ。
魔王は、『凍てつく吹雪』を放った！
老師は、1454 のダメージを受けた。
老師:こちらからも行くぞ。
老師は、『輝く聖光』を放った！
魔王は、2255 のダメージを受けた。
魔王:何だと！！
こんな老いぼれが、
これ程の高級術を！
老師:さらに行くぞ。魔王。
世界を闇にはさせない。
魔王は、4848 のダメージを受けた。
魔王:良いだろう。
老いぼれよ。
我が魔力で苦しむが良い。
老師:………うう。
老師は、4848 のダメージを受けた。
魔王:私は悪魔だ。
世界を闇に支配し、
人類を苦しめてやる。
老師:…………うう。
老師は、5444 のダメージを受けた。
ホープ:いけない。老師様が死んでしまう。
いったいどうすれば…。
ガール:『光の祈り』をしましょう。
高級霊様に祈るのです。
ホープ:よし。祈ろう。
…老師…老師…。
聞こえますか。
老師:…！！！
この声は！！！！！
まさか、勇者様。
勇者:そうです。
50 年前、魔王を倒した勇者です。
勇者:良いですか、老師。
大切な話をします。
勇者:老師。魔王は倒せません。
魔王を倒すことは不可能です。

老師:そんな！！！
魔王は倒せない。この世界を、
闇に支配されろというのですか。
勇者:違います。
魔王は不死身であり、
倒せませんが…。
勇者:魔王を封じ込めることは出来ます。
老師:魔王を封じ込める…。
勇者:そうです。
私が教える魔法を使えば、
魔王は50年間封印することが出来ます。
勇者:魔王の寿命は、250歳です。
私が倒した時、魔王は50歳でした。
今、魔王は100歳です。
勇者:後、魔王を150年間封印すれば、
魔王は倒せます。
老師:では、わしが、魔法で、
50年間魔王を封印し、その後の人間が、
同じように、魔王を封印せよと。
勇者:そうです。
それしか世界を、闇に支配されるのを、
防ぐ方法はありません。
老師:分かりました。では、
その魔法を教えてください。
勇者:良いでしょう。しかし、
この魔法には、1つだけ欠点があります。
老師:何ですか。
勇者:命と引き換えに、
使える魔法ということです。
老師:……。
そうか。そうだったのか。
老師:だから勇者様は、
魔王が、この世界から消えたと同時に、
貴方も消えた。
勇者:そうです。
私の命と引き換えに魔王を封印しました。
老師:分かりました。
その魔法を使います。
勇者:では、教えます。
魔王:何をごちゃごちゃと独り言を言っている。
魔王:我が魔力で苦しむが良い。
老師:…………うう。
老師は、5449のダメージを受けた。
老師:私は十分に生きた。
老師:世界のために、
この命をかけよう。

勇者:老師、この魔法を唱えなさい！
老師は、勇者に教わった魔法を唱えた。
ホープ＆ガール:老師様！！！
老師:………。
何とか、魔王を封印出来たようじゃ。
老師:これで魔王は50年間現れない。
老師:50年間、
人々が幸せに暮らせる。
わしは嬉しいぞ。
ホープ＆ガール:老師様！！
老師:どうか、わしの遺志を継いで欲しい。
50年後、魔王の封印が解けた時、
再び、魔王を封印して欲しい。
老師:50年後、誰かが魔王を封印し、
また50年後、現れては封印し、
また封印すれば魔王は消える。
ホープ＆ガール:私が魔王を封印します。
世界を闇にしないために。
ホープ＆ガール:そして、
老師様の遺志を、
次の世代にも引き継ぎます。
老師:そうか。ありがとう。
老師:世界に光あれ。
老師:……………………。
『世界の光』
製作者:エタリラ670
総責任者江川剛史
to be continued.